

調査研究題目:日本の海洋島に生育する野生植物種の標本データベースの構築  
研究機関名:首都大学東京  
代表研究者:教授 村上哲明

## 1. 作成したデータベース内容

### 概要

小笠原諸島、大東諸島、琉球列島など日本の最南部に位置する島嶼には、特異な植物種が多数分布している。特に小笠原諸島と大東諸島は、一度も大陸（日本本土も含む）と陸続きにならなかったことがない海洋島であり、世界でここにしか見られない固有植物種も多数存在している。これら日本列島の海洋島に生育する野生植物種の標本情報を皮切りにして、これらと密接に関連する南西諸島や九州南部に生育する植物種、そしてさらに南太平洋諸島（ミクロネシア）やフィリピンの植物標本（戦前、戦中の標本が多数残されている）についても日本に所蔵されている標本のデータベース化を行う。このように生物多様性の研究やその保全のための基礎的情報を提供するという観点から特に重要と考えられる日本の海洋島に絞って標本データベース化を行うのが本データベースの特徴である。

### (1). データ源、データ発生場所および入力件数

#### 【データ源】

植物のさく葉（押し葉）標本：東京大学（TI）、首都大学東京（MAK）、琉球大学（RYU）、鹿児島大学（KAG）の各植物標本庫に所蔵されている約5万点の小笠原諸島及び大東諸島産の維管束植物（シダ植物・裸子植物・被子植物）標本。  
小笠原諸島及び大東諸島産の植物種と同種あるいは近縁種と考えられるものを多く含む他地域（南西諸島、九州南部、ミクロネシア、フィリピンなど）の維管束植物標本約5万点。合計約10万点の維管束植物標本。及び対象分類群の分類情報が記載された文献類。

#### 【データの発生・収集場所】

標本情報：自機関および参加研究者の所属機関でそれぞれデータを収集した。

分類情報：自機関でデータを収集した。

#### 【データの保存媒体とデータ件数】

標本

自機関	対象標本	入力予定件数	入力件数
	維管束植物	2,800件	約5,000
他機関			
東京大学	維管束植物	4,000件	約2,500件
鹿児島大学	維管束植物	200件	約2,500件
琉球大学	維管束植物	8,000件	約5,000件
合計		約15,000件	約15,000件

保存媒体：ハードディスクおよびDVD-R

## (2). データ入力形式

標本ラベル情報 (テキスト及び数値)

- ・採集データ (採集地・採取年月日・採集者など)
- ・同定データ (学名・和名・同定者・同定日など)

標本画像 (JPEG 形式) : ラベルの読み取りが可能な解像度で、標本全体を撮影

分類情報 (テキスト) : 対象分類群の学名・シノニム・和名・科名など

作成したデータベースは、**DarwinCore 2.0** スキーマの必要要件を満たしており、**GBIF** 日本ノードを通じてのデータ発信が可能である。

## (3). データのクオリティコントロール

各機関の担当者が随時チェックを行うほか、日本植物分類学会の植物情報専門委員会の委員や他の専門家に依頼して、データの誤りや信頼性についてチェックをしていただき、必要な訂正を行った。

## (4). データ公開

現時点までに首都大・牧野標本館において入力されたデータは、以下のサイトにおいて試験的に公開されている。

<http://wwwmakdb.shizen.metro-u.ac.jp/makino/home.php>

このサイトの利用状況や利用者からの意見を参考にしつつ、検索システムなどを修正し、データベースの完成度を高める。他機関に関しては、来年度以降、各機関にサーバを設置して、公開できる体制を整備する。

GBIF 日本ノードへのデータ提供時期は 2008 年 4 月末。

## (5). 本課題終了後のデータ追加更新およびデータベース運用体制、および問題点

### (5-1) データベース運用体制

データは GBIF に提供するほか、各機関のサーバによる公開を予定 (首都大は既に実施) している。

### (5-2) データの追加・更新体制

予算があれば、データの追加を行い、随時更新する。

### (5-3) 追加・更新したデータの GBIF 日本ノードへの提供スケジュール

年度末～次年度始め頃

### (5-3) 見込まれる予算

標本は常に増え続けるので、データ追加作業に約 400 万円 (各機関につき 100 万円/年) が必要である。

## (6). その他

## 2. H19年度の実施状況

	H19/ 7月	8月	9月	10月	11月	12月	H18/ 1月	2月
(1). 会議開催等				○	○			
(2). データ作成・入力	●————→							
(3). 試験公開・公開 (自機関サーバ、他機関 サーバを問いません)						●————→		
(4). その他（具体的に 記述してください）								

## 3. 実施体制

<b>開発責任者</b>	村上哲明、首都大学東京・牧野標本館、教授、 全体の総括
<b>参加研究者</b>	邑田 仁、東京大学理学系研究科附属植物園、教授、 データ入力・管理  横田昌嗣、琉球大学理学部海洋自然科学科、教授、 データ入力・管理  落合雪野、鹿児島大学総合研究博物館、准教授、 データ入力・管理  加藤英寿、首都大学東京・牧野標本館、助教、 データ入力・管理

#### 4. アドバイザリー委員会（設置なし）

（5－1）構成員

（5－2）委員会開催日、開催場所および概要

#### 5. ワーキンググループ（設置なし）

（5－1）構成員

（5－2）ワーキンググループ開催日、開催場所および概要